

めざせ！医学部！！

AD 2012.10

皆さんこんにちは(*^_^*) 段々と涼しくなってきましたね。
今月は「医学生ゼミナール」「受験生の皆さんへのメッセージ」「新潟水俣病現地調査」「医学生の夏休み実習」をお送りします。新潟水俣病は、私たちが長年にわたり取り組んできた医療活動のひとつです。じっくりとご覧下さい。
皆さんからのご意見・感想を本当に持っています。次回以降、載せてほしい記事や内容に関するご意見がありましたら、是非学生担当までお問い合わせください。

「第55回 医学生ゼミナール in 群馬」

今年から新潟大学の医学生が中心に集まる学習会や、民医連の全国企画である「医学生のつどい」を連載してきました。今回は「医学生ゼミナール」を紹介します。略して「医ゼミ」とも呼ばれていますが、皆さん聞いたことはあるでしょうか。毎年8月に行われている企画なのですが、今年は8/9～8/12に群馬大学で開催されました。400人前後の参加者が集まる、学生主催の医系学術企画では日本最大規模のイベントです。全国各地の医学生や医療系学生が集まり、普段疑問に思っていることや興味のあることを発表し合い、集まった学生全員で学び交流します。

今回のメインテーマ 「震災後社会—現在をみる、未来を医す—」

このテーマは東日本大震災から約1年半が過ぎ、メディアでも被災地についての報道が減少する中で、現在進行形で起きている様々な問題に目を向けて「医学生として今できることを考えよう」という想いで考えられたものです。また原発問題と米軍基地問題の実態に迫り、背景にある社会の構造や文化を考えることで「見ようとしなければ見えないもの」の視点を深めようという取り組みられました。他にも非常に多岐にわたる学習会が開かれましたので、医療系学生がどんなテーマを学んでいるのか一部を紹介します。

「アスベルガー症候群についてもっと知ろう！」「医療者の過労死について考える」
「ALS患者から学ぶ“生と死を考える”」「真面目に楽しく食を考えよう」「不妊治療」
「貧困問題を最近の話題から考えてみる」「B型肝炎訴訟について」「障害と生きる」

上記は全て医療系学生を中心としたグループが発表した内容です。与えられたテーマを学習するだけではなく、自ら物事の本質に迫ろうとする姿勢をもって取り組まれた、どれも素晴らしい内容の発表でした。文化人の講演も聞かれましたので紹介します。

- * 肥田 舜太郎氏（日本被団協原爆被害者社中央相談所所長）
- * 大棟 耕介氏（日本ホスピタルクラウン協会理事長）
- * 本田 宏氏（埼玉済生会栗橋病院院長補佐）

肥田舜太郎氏（写真）は、原子爆弾やフクシマ第一原発事故に共通する、内部被ばくについての講演をされました。著書など多数ありますので、みなさんも興味がありましたら書店で本を手にとってみて下さい。



新潟民医連 医学部進学応援 NEWS

☆☆☆★医学生からのメッセージ☆☆☆☆



新潟大学 医学部医学科 Hさん



医学部をめざすみなさんへ

こんにちは！ようやく厳しい残暑も和らいできたような、そうでもないような日々ですが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

私は新潟大学に入学してまだ1年も経っていません。医学部の専門的な授業はまだなく、一般教養（物理・化学・生物・統計・英語・第二言語 etc…）を勉強する日々です。なので「医学生」っぽい大学生活についてはあまり話すことはできませんが、近い将来みなさんが医学部に入学してすぐ迎えることになる大学生活について書きたいと思います。みなさんのやる気を少しでも刺激できれば幸いです。

大学生生活の醍醐味はなんと言ってもいろいろな人との出会いです。とくに医学部は本当に全国津々浦々から人が集まります。さらに年齢も様々で、みなさんと10歳くらい年の離れた人とも友達になることができます。面白い人、アクティブな人、尊敬できる人がたくさんいます。医学科の場合、同じ科の人と6年間過ごすので、なにかと仲良くなる機会が多く、きっとみなさんにも気が合う仲間が見つかるはずです。また部活やサークルに入ると交友が横にも縦にも広がります。医学科は勉強に忙しいイメージがあるかもしれませんが、ほとんどの人が何かしらの部活に入っていますので、みなさんも無事入学された暁には興味ある活動に参加してみてください。

また学校生活の中心となる授業については、高校時代から各教科の発展的な内容に興味を持っておくといと思います。とくに理科については高校時代に十分な説明がなかった分野があると思いますが、そうしたことにしても深く学べます。また毎週実験があり、講義で習ったことの理解がさらに深まることもあります。医学科は夏休みに早期医学体験実習というのがあり、様々な診療科や外部の医院から実習先を選ぶことができます。私は実習にあまり乗り気ではありませんでしたが、やってみるとすごく良い経験になります。病気に悩む患者さんの役に立ちたいという気持ちが自然に湧いてきて、医学を学べる環境に身をおけたことに改めて喜びを感じられます。

最後に私が受験生のときにいつも心がけていたことを紹介したいと思います。受験は集中力と確実な知識がものをいいます。愛用する参考書や教科書を決めたら何度も繰り返してください。そして本番は、目の前の問題、1つ1つの試験に集中してください。これさえしっかりできればどんな試験も乗り切れるはずです。

自信をもって、精一杯努力してみてください。いままでの学校生活とは比べ物にならないくらい刺激的な日々が待っていますよ！

あなたも奨学生に

新潟民医連では奨学貸付金制度を設けています。私たちは、医学生の興味のある企画や学習を全面的にバックアップしています。医師として現場に立った時、病氣や疾患だけではなく、より幅広い目で社会を見られるよう成長してほしいと願っているからです。医師を目指すために毎日学習に励んでいる皆さんを心から応援しています。受験のことや大学生活のことなど、ご相談がありましたらいつでも学生担当までお問い合わせください。

* 返済免除制度もあります。

☆☆☆新潟水俣現地調査☆☆☆

ミナマタからフクシマへ

9/22(土)に新潟水俣病共闘会議主催の新潟水俣病現地調査が開催されました。水俣病とは工場からの排水に含まれた有機水銀によって汚染された魚介類を、長期間たくさん食べることによって起こる神経系疾患です。公式発表から47年が経過してなお、多数の潜在被害者がいるとみられ、その被害の全容がつかめておらず、未だ多くの課題を残す問題です。

今回の現地調査は「ミナマタからフクシマへ」をテーマに据え、旧昭和電工鹿瀬工場周辺と阿賀野川流域を見学し、患者さんたちの体験とフクシマの被災者の話を聞きました。

右の写真は新潟水俣病の原因となった旧昭和電工鹿瀬工場の排水口付近です。当時、この排水口付近の水苔からメチル水銀から検出されたことが、新潟水俣病の犯人を決定づける証拠となりました。



午後からは被害者交流会があり、新潟水俣病の現状と課題について報告されました。左の写真は関川医師(沼垂診療所所長)による報告です。今年7月末で水俣病特別措置法の申請が打ち切られましたが、医療の現場からその不当性と被害者の実態について報告されました。またフクシマの原発事故被害の実情も報告され、水俣病の経験と教訓をどのようにフクシマへ活かせるか意見が交わされました。

水俣病をめぐるのは、裁判を含め数々の「たたかい」が繰り返されてきました。当初は政府や独占資本をも揺るがすような大闘争が組めるなど、誰もが予測し得なかったことでした。しかし新潟民医連は水俣病発生当初から「患者の立場に立ち、患者の納得のできるたたかいを被害者とともにすすめる」という姿勢を貫いてきたことが、裁判闘争勝利への道をひらいたといえるでしょう。

中国の唐代の資料には「上医は国を医し、中医は人を医し、下医は病を医す」という言葉があるそうです。民医連運動に関わった医師は、国の在り様から正して患者・被害者を救う、まさに上医と呼ぶべき存在と言えるでしょう。みなさんにも是非そうした医療人を目指してほしいと思います。

沼垂診療所 事務長 中村 岳夫



模擬面接のご案内

- * この企画は、医学部を目指す高校3年生・予備校生・浪人生を対象としたものです。
- * 面接官には医師が入り、実際の面接試験と同様に行われます。面接後アドバイスの時間もあります。
- * お申し込みをご希望の方は、進路の先生もしくは新潟民医連の学生担当までご連絡下さい。10/26(金)締切り【開催日時】11/10(土)14:00～ 11/13(火)17:30～ (2月にも開催予定です)【開催場所】舟江診療所 新潟市中央区入船町3-3629-1

☆医学生の実習☆

新潟民医連の院所では、オールシーズン！海外や日本全国どここの医学生でも、病院見学や実習を受け入れていきます。今回はこの夏に来た医学生の様子を紹介します。皆さんも医学生になったら是非来てください！



上の3枚は救急外来の様子です。白衣を着た医学生が医師や看護師の処置を見学しているところです。



この3枚はベテラン医師に密着しているところです。実習で1日密着していると色々なことが学べます。

感想文紹介

- * 病院という場所が単なる医療の場ではなく、経営の面・啓発の面・教育の面など様々な要素を併せ持った高度な施設であることを実感しました。この場にふさわしい人間になれるよう、今後も精進していこうと思います。(北海道大学6年Sさん)
- * 医師と患者さんの距離がすごく近いと思いました。特に夜間の半当直、当直の際にそう感じました。患者さんは自分の体について不安がって来院される、ご家族も心配そうにそれを見つめる、その中で医師がきちんとその不安を受けとめ、適切な判断を下し、患者さんと家族に納得ゆくまで伝えるという姿に感銘を受けました。(山梨大学5年Sさん)
- * 大学病院では体験できない、市中・民間病院の診療現場を体験することができました。胃カメラや心臓カテーテル、整形外科の手術などが見学できて良かったです。(新潟大学5年Mさん)

下越病院研修医ブログ「レジスピ」も是非ご覧ください！



下越病院 QR コード

ご質問・お問い合わせはこちらまで↓↓

新潟県民主医療機関連合会

新潟市中央区医学町通1番町45第2関本ビル2F

TEL:025-224-4073 FAX:025-225-5260

E-mail:gakusei@niigata-min.or.jp

新潟民医連 |

検索